

手間を省いて 授業品質は上げる



予習、振り返りをアンケートで

受け持っている全授業でmanabaの利用をしているという小泉先生。中でも最も幅広く機能を活用しているのが2回生配当のゼミ「プロジェクトスタディ」です。授業は前後半に分かれ、前半においては、学生自身がテキストの中から興味のある章を選択。レジュメを作成して発表します。発表者は毎回ほぼ3人。他の学生は当日発表される章の中から1つ選び、授業前日までに200字～400字の感想コメントを記述、アンケート機能で提出しておきます。

「あらかじめ感想を書いて予習しておけば、発表内容も理解しやすいんです。発表後は感想を基に、選んだ章について意見も言わせるようにしていますね」。

レジュメと感想コメントは掲示板で共有。授業の振り返りにも使えます。

前半後半でツールをチェンジ

後半ではテレビや映画など、選んだテーマごとに3～4人のグループを形成。関連文献や論文を読んだ上で発表します。発表自体は1人ずつ行うものの、メンバーの発表課題をプロジェクト機能で確認したり、相談したりすることが可能。発表者以外は翌週までに全発表についての感想コメントを作成します。感想とレジュメは、前半と同様、掲示板に掲載。多くの学生は、最終レポートとして後半の発表内容をより掘り下げたものを提出しますが、その際に、他の学生の意見を見返して参考にすることができます。

さらに教員から配布される資料については、前半後半を通して都度コンテンツにアップ。当日欠席した学生もダウンロードできるようにしています。

手間によるストレスの排除

「アンケートのコメントをエクセルで落として、加工の手間も少ないので、掲示板に貼り込むのが楽。教員からすれば、データ整理がしやすいですね。提出状況の確認がスムーズなものいい。アンケート機能は字数確認ができるので、学生も比較的簡単にコメントの打ち込みが可能なんじゃないでしょうか」。

ユーザビリティの高さという点では、「広告論」など、大規模授業で活用している出席機能についても感じているとのこと。これまで大人数の講義では、課題を集めるだけで20分程度の時間を消費。出席カード(アンケート)で出席を取ると共に、その日の授業課題に関連する意見や感想を問うという方法に切り替えてから、90分ほぼ丸々、講義に充てることができるようになったといいます。

出席カードが教員をラクにする

「QRコードで出席を取っていた頃は『忘れられました』という学生が、1人や2人は必ずいたんですよ。スマートフォンを忘れる人はあまりいません。たまに充電切れの人がいたとしても期限を長く設定して、後でアクセスしてもらっています。教員が修正したり打ち込んだりする作業が減りましたね」。

また出席カード(アンケート)については「アンケートデータがザッと出てきて、その場でプロジェクトに映せるので、学生の意見をピックアップしやすいのが気に入っています」とのこと。

質問の性質でスマートに 使い分け

実は取材日までスマートフォンからアンケートを入力できると知らず、大規模授業でのmanaba活用については出席機能やコンテンツのみに限られていたという小泉先生。「スマートフォンから打ち込めるなら助かります。来期から大規模授業でのアンケート機能使用を考えてみていいかもしれませんね」とニコリ。しっかり意見や感想を聞きたい時は、アンケート、グラフなどをその場で見せたい時は出席カード(アンケート)というように、場面で使い分ける方法についても検討しているとのこと。



1 プロジェクトスタディのアンケート回答画面です。授業後に課題についての感想や意見を学生が回答すると、その内容を先生は一括ダウンロードして確認します。さらに加工したものを掲示板で学生に共有しています。

2 広告論の出席カード提出状況確認画面です。カードタイプはアンケートを用いて、授業のテーマに沿った内容についての意見を学生に記名式で提出させています。授業では、リアルタイムで学生の回答内容をプロジェクトで投影しています。

授業規模

大規模

中規模

小規模

授業形態

講義

演習・実習

語学

manaba機能

小テスト

アンケート

レポート

プロジェクト

成績(採点結果)

掲示板

コンテンツ

コースニュース

出席